

# 未来照らす存在に

## 市内4高校卒業式 525人新たな一歩

玉野高は133人が卒業。多田一也校長が卒業生代表の赤井亮吾さん(18)に卒業証書を手渡し、「広い視野を持った未来を照らす存在として、未来のつくり手となってほしい」とはなむけの言葉を贈った。

卒業生は保護者や恩師の拍手に送られながら、体育館を退場。各ホームルームで、一人ずつ恩師や保護者、友人に向き合ったりする生徒の姿も見られた。

式は新型コロナウイルス対策で来賓の出席は見送り、井野川さん、玉野商工高は141人、光南高は236人、備南高は15人が卒業した。(矢吹喜一朗)

市内4高校で1日、卒業式が行われた。計525人が勉強や部活動に励んだ思い出いっぱいの学びやを巣立ち、進学、就職などそれぞれの道へ新たな一歩を踏み出した。

2年井野川羅威さん(17)が「先輩方が脈々と受け継いでこられた良き伝統を絶やさないよう、今度は私たちが後輩たちへと必ずつないでいく」と送辞。答辞に立った藤原海都さん(18)が新型コロナウイルスにほんろうされた学校生活を振り返り、「3年間の思い出を胸にそれぞれの夢



玉野高で多田校長から卒業証書を受け取る卒業生代表の赤井さん

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。